

二〇二一年二月一九日

手作りの豆粒ほどの貝雛
枯蔦の抽象画なす土堀かな
雪解風鈴なりの絵馬鳴らしけり
きしきしと踏み鳴らし行く雪の果て
亡き母の齢を超えし梅見かな
たゆたふて陣をなさざる春の鴨
種物を吊るして伊根の舟屋かな
受験子を励ます兄も試験前
廃屋の雑木に凜と梅の花
春兆すあちみこちみや風見鶏
わらべ唄漏るるホームや老の春

二〇二一年二月一八日

涅槃図の裏に隠るる金の弥陀
隣り合ふ足湯の縁や遍路どち
春泥を踏み山門にたどり着く
春灯昔置屋といふ茶店
丘の上の十字架に日脚伸ぶ
午後の陽に雪崩をなせる屋根の雪
春の富士薄紅色に昏れなんと
甘酒屋よく繁盛す苗木市

二〇二一年二月一七日

生垣の揺るると見れば笹子鳴く
懸崖の窪み窪みに雪残る
火山灰被りしという春菜来る
春寒し浜辺歩くに背を丸め
坂道に地図描くごとく雪解水
春の水吐き出す手押しポンプかな
春の月スポットのごと城照らす
飛行雲立ちて春空二タ分けす
里山の春動き出す瀬音かな

はく子
英子
とろうち
菜々
あさこ
明日香
うつき
なつき
治男
宏虎
雅流

菜々
よう子
三刀
うつき
つくし
よし子
満天
よし女

有香
美咲
満天
よし女
とろうち
菜々
こすもす
ぼんこ
花茗荷

裏山の春椎茸を家苞に
恋猫の奇声怒声や相譲らず
七堂へ雪解しずくの合奏す
二〇二一年二月一六日

飛行機雲春夕焼けを抜けにけり
春泥もなににするものぞ吟行子
異教めくステンドグラス涅槃寺
ふらここや靴裏天に突き出して
梅林の径狼藉すカメラマン
句談義に和む茶房や草団子
野晒しの鉢洗ひけり水温む
試歩の母一步一步に草萌ゆる
涅槃図の裏に寄進の札並ぶ
雪積もる丹の欄干の天辺に
如月の水に馴染みぬ絹豆腐
唐破風の曲線伝ふ雪解水
涅槃西風九輪の雲をはらひけり
季にあそぶ生活は愉し春の雪
大小の庖丁命卒業す
一山は雪解しずくの音浄土
二〇二一年二月一五日

保命酒腑をめぐりをる老の春
涅槃絵の裏を覗けば奉加帳
碧空に緋色輝く梅日和
蹲に化粧塩ほど春の雪
橋脚も折れよと激つ雪解川
ジェット機のJALと読めたる鳥曇
吾が首をうつ方丈の雪解水
大試験乗り越え終わる反抗期
供花も無き暗き石棺春寒し
二〇二一年二月一四日

三刀
宏虎
菜々

治男
きづな
せいじ
ぼんこ
あさこ
こすもす
つくし
わかば
ともえ
満天
宏虎
うつき
菜々
明日香
よし女
菜々

雅流
わかば
あさこ
花茗荷
宏虎
きづな
こすもす
なつき
満天

牡丹雪つぶてとなりて車窓打つ
風荒らぶ沖よりどかと春の雪
暮れてより家並み華やぐ春の雪
と見る間に街白変す春の雪
磨崖仏裳裾を隠す春の雪
病む友の破顔一笑バレンタイン
名酒入りなればほろ酔ふ愛のチョコ
山朱萸の黄の明るきを茶の部屋に
二〇二二年二月一三日

義理とても貰えば嬉し愛のチョコ
公園のベンチに座る雪だるま
退院の日を数ふれば山笑ふ
写経堂雪解雫の音ばかり
おしゃべりのはなさく午後のホットレモン
雪の壁砦としたる露天風呂
囀りや斯く晴れやかな美空得て
雪解いま危機一髪や屋根庇
永き日の河原でバット振る子かな
雪解水宿す万朶に朝日燦

英子	雅流	菜々	明日香	宏虎	すずかぜ	なつき	わかば	百姓	なつき	はく子	うつぎ	英子	こすもす	わかば	明日香	なつき	明日香
----	----	----	-----	----	------	-----	-----	----	-----	-----	-----	----	------	-----	-----	-----	-----

毎日句会みのる選・二〇二一年八月二日